



目標—指導—評価の一体化のための学習評価

小学校図画工作のポイント



小学校図画工作における題材の評価規準の作成は、「内容のまとめり（「造形遊び」、「絵や立体、工作」、「鑑賞」）ごとの評価規準」から作成する方法と、「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえて作成した題材の目標から作成する方法が考えられます。ここでは、題材名「のこぎりザクザク生まれる形（第3学年）」について、内容のまとめり「絵や立体、工作」の評価規準から作成する方法を取り上げます。（内容のまとめり「鑑賞」の評価規準については省略しています。）



題材名
「のこぎりザクザク生まれる形」（第3学年）

内容のまとめり
第3学年及び第4学年 「絵や立体、工作」、「鑑賞」

I 題材の評価規準を作成する流れ

[Step1] 学習指導要領「各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕2 内容」の記載事項を確認します。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>〔共通事項〕 (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの<u>感じが分かること。</u></p> <p>「A 表現」 (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。</p>	<p>「A 表現」 (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて<u>考えること。</u></p> <p>〔共通事項〕 (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 形や色などの<u>感じを基に、自分のイメージをもつこと。</u></p>	<p>進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 〔第3学年及び第4学年 1 目標 (3) の記載〕</p> <p>※内容には、「学びに向かう力, 人間性等」について示されていないことから、当該学年の目標(3)を参考にします。</p>

[Step2] 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの<u>感じが分かっている。</u> 材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<p>形や色などの<u>感じを基に、自分のイメージもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</u></p>	<p>つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成します。</p>

※ 同様に鑑賞についても「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

※ 「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」は「参考資料」の巻末にすべての学年分掲載されています。

[Step3] 題材の目標を作成します。

題材の目標の作成の手順（例）

- その題材で指導する事項を学習指導要領等で確認する。
- 題材に即してどのような内容が当てはまるか考える。それを踏まえ、書き換えたり削除したりする。
(学習指導要領で示している「学年の目標」や「内容」は、2年間を通して実現することを目指すものであることから、その題材では指導しない内容が含まれていることも考えられるため。)

Point !



題材名 「のこぎりザクザク生まれる形」


この題材は内容のまとめ「絵や立体、工作」と「鑑賞」の2つを扱うため、この2つの内容のまとめごとの評価規準の考え方等を踏まえて作成します。

題材の目標

- (1)・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かる。
 - ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2)・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3)・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

【Step4】 題材の評価規準を作成します。

題材の評価規準の作成は、「内容のまとめごとの評価規準」から作成する方法と、「内容のまとめごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から作成する方法が考えられます。題材の目標を全体を一文にした場合などは、省略する箇所が生じることが考えられるため、「内容のまとめごとの評価規準」から作成することが望ましいとされています。
※ここでは、【Step2】内容のまとめごとの評価規準から題材の評価規準を作成する例を紹介しています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知識」 ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かっている。</p> <p>○全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「[共通事項]のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことも考えられます。</p> <p>○全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことが考えられます。</p> <p>「技能」 ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p> <p>○全ての題材において、全学年の「材料や用具」、中学年、高学年の「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示します。</p> <p>※文末は「～ようとしている。」となります。</p>	<p>・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>※造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」などを参考にして、題材に即して具体的に示します。</p> <p>※絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいこと」については、題材に即して選択し、さらに具体的に示します。</p> <p>・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p> <p>※鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択し、さらに具体的に示します。</p> <p>※全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色の感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「[共通事項]のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示します。</p> <p>※文末は「～ようとしている。」となります。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※題材に即して「表現する学習活動」や「鑑賞する学習活動」を具体的に示します。</p> <p>※文末は「～ている。」となります。</p> 

II 指導と評価の計画を立てる

題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法を考えておく必要があります。なお、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、児童の学習状況を記録に残す場合以外においても教師が児童の学習状況を確認する必要があります。

指導と評価の計画（全6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	・のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。	<p>題材の内容や時間数、年間指導計画との関連などを踏まえ、重点を置く観点があるかどうか、ある場合の観点到重点を置くかなどを考えながら評価規準を設定した上で、表現と鑑賞の評価の関連などについて考えることが重要です。本題材では、「技能」の育成が重要な学習活動であることを踏まえて、「技能」に重点をおいた評価を行うことにしました。</p>					1, 2時間目は記録に残す評価はしないが、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて2時間目に「技能」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。
2	・のこぎりを適切に扱う。						
3	・切った木（木片）を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。			○		3時間目は記録に残す評価はしないが、「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて4時間目に「思考・判断・表現（発想や構想）」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。	
4				◎ 観察 対話 作品			
5	・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			5時間目は「知識」、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。	
6	・自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。			◎ 観察 対話 作品カード	◎ 観察 対話 作品カード		6時間目は「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録を残す。

※○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。 ◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

III 評価の実際

（例）第6時【思考・判断・表現（鑑賞）】、【主体的に学習に取り組む態度】

【思考・判断・表現（鑑賞）】について

「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で、作品を鑑賞している様子を、観察する、問いかける、作品カードを見るなどして児童の学習状況を把握し、記録に残した。

（例）Zさんについて

Zさんは自分や友人の作品を見て、よさや面白さ、表し方の工夫などについて感じ取り、話し合っていました。



【主体的に学習に取り組む態度】について

学習活動全体を通して把握してきた「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価を踏まえて、記録に残した。

（例）Kさんの作品、作品カード



<作品カード>

『大かいだんのひみつきち』
大かいだんをぐねぐねにして二かいに行ったりてんぼう台にいたりできるようにしました。木をおもしろい形になるように切りました。

Kさんは階段をつくろうと木片の向きや大きさを考えていました。階段全体が緩やかな螺旋状になるように木片の組合せを工夫して接着し、一番上の段は横を向いていて、一歩踏み出すと展望台につくようになっていると話していました。

IV 観点ごとに総合的な評価を行う

※評価の総括は、題材の評価規準に照らして、主に指導と評価の計画で明示した全員の学習状況を記録に残した評価を基に行います。

※本題材では、1, 2時間目に「技能」を働かせる活動場面が設定されています。のこぎりの扱い方に慣れずなかなか木が思い通りに切れない児童がいることが予想されるため、材料や用具を適切に扱えているかを評価し必要に応じて指導を行いました。そのことによって、活動の後半では、児童が自分の思いで活動を進め、技能を働かせて工夫して表す姿につながりました。このことを踏まえて「技能」については5時間目に記録を残す評価を行いました。1, 2時間目に行った評価とその後の指導は「主体的に学習に取り組む態度」に影響が出ないように行った配慮とも考えることができます。

【本事例における観点別学習状況の評価の総括の例】

氏名	観点		記録に残す評価	総括	メモ
〇〇 〇〇	知 技	知識	B	A	
		技能	A		
	思	発想や構想	B	B	
		鑑賞	B		
	態		B	B	
	△△ △△	知 技	知識	A	A
技能			A		
思		発想や構想	A	A	
		鑑賞	B		
態			A	A	
□□ □□		知 技	知識	B	B
	技能		B	のこぎりに不安を感じていた→クランプで木を固定するように指導	
	思	発想や構想	C	B	
		鑑賞	A		友人の表現の発想や構想について感じ取ったり考えたりし、自分の作品の木片の形を見直している姿が見られた。
	態		B	B	

※ 本題材は、年間指導計画に「技能」を重点的に指導する題材としたため、〇〇さんは「知識」はB、「技能」はAで、総括としてはAとしています。同様に「思考・判断・表現」については、「思考・判断・表現（発想や構想）」を中心に評価したことから△△さんは「思考・判断・表現（発想や構想）」A、「思考・判断・表現（鑑賞）」Bで、総括としてはAとしています。

※ しかし、総括においては、基本的な総括の方針を重視しながらも実際の児童の活動の内容に即して評価を行うことも大切です。□□さんは「思考・判断・表現（発想や構想）」C、「思考・判断・表現（鑑賞）」Aですが、鑑賞の際の姿や作品カードへの記述から「思考・判断・表現」をBと総括しています（上記メモ欄を参照）。□□さんに対しては、今後実施する題材において、表したいことを身に付ける場面で、友人の活動に目を向けるように指導したり、鑑賞の場面で友人の作品のよさや面白さを感じ取ることができたことなどを価値付け、発想や構想をする学習に主体的に取り組もうとするようにしたりすることが重要です。

※ 題材によっては、本事例のように評価する資質・能力の重点化をせずに、評価を行う場合もあります。その際は、記録に残す評価の回数に応じて総括するなど、あらかじめ基準を決めておくことが大切です。